

取組の柱③：多層的な連結性

事例②⑨：ベンガル湾からインド北東部を繋ぐ産業バリューチェーンの構築

1. 基本的な考え方

- 日本は、インドが提唱する「インド太平洋海洋イニシアティブ（IPOI）」における「連結性」の柱のリード国。また、これまで「日印アクト・イースト・フォーラム」等を通じ、内陸に位置するインド北東部開発を支援。
- バングラデシュとの間ではベンガル湾産業地帯（BIG-B）構想の下、日本はマタバリ深海港の開発や同港とチョットグラムとダッカの連結を支援。
- こうした枠組みにおける協力を一層推進するとともに、両枠組みの成果物を有機的に連携させることによる相乗効果を通じて、ベンガル湾地域における連結性の更なる向上を図る。

⇒ ハード・ソフトの連結性支援に加え、民間投資の促進も加えた包括的なコンセプトを追求することにより、インド北東部を海に繋ぎ、印バ両国をまたぐビジネス・産業を育成。併せて、インフラ建設後、日本の産業界も裨益する産業バリューチェーンの構築を目指す。

2. 具体的な取組

- ベンガル湾からインド北東部を繋ぐ産業バリューチェーン構築の戦略的重要性に関する理解の促進。

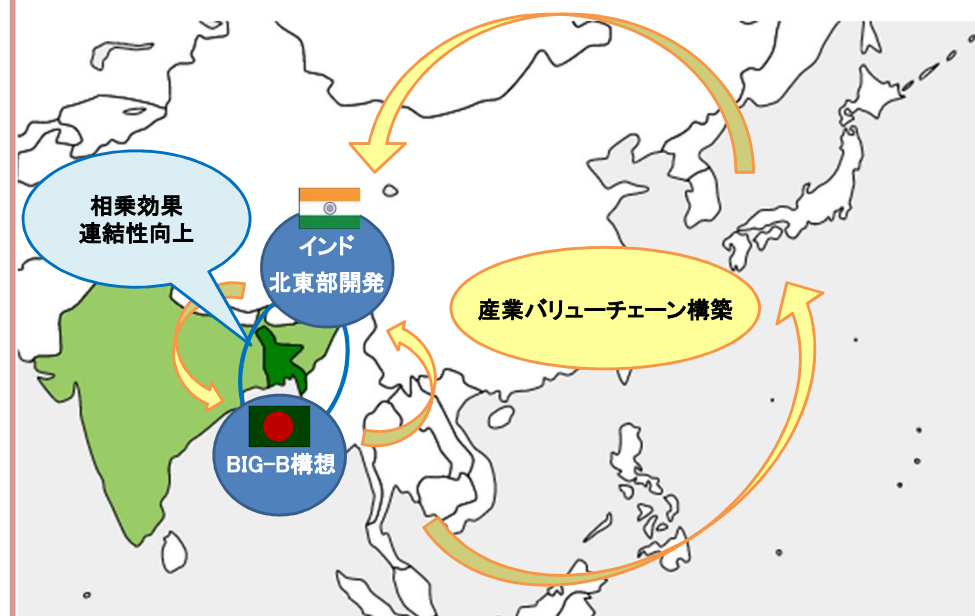
（例）インド北東部及びバングラデシュ政府、民間を交えたトラック2の開催。日本企業への関心喚起。

- 同地域の連結性インフラ（ソフト・ハード）の強化

（例）「インド北東部の持続可能な開発に向けた日印イニシアティブ」。バングラデシュのインフラ開発における日印協力（道路網・鉄道網整備等）。ベンガル湾産業地帯（BIG-B）構想の下での日バングラデシュ協力。

- 日・バングラデシュ経済連携協定に向けた共同研究促進。
- 同地域との人的交流の強化

（例）JENESYSを通じた青年招へい。シンクタンクとの連携強化。



メグナ第2橋(バングラデシュ)

(写真提供:大林組・清水建設・JFEエンジニアリング・IHインフラシステム共同企業体)



マタバリ深海港(バングラデシュ)